



ことばのたね 2 遊びへの思い

ぶらさがっている幼虫が激しく動きだしました。
「体操しているみたい、ほら 1、2、1、2」
「グルグル回って目がまわらないのかなあ」と、
いつもと違う動きを見て最初は面白がっていたが、幼虫が皮を脱いで
サナギに変身しようとしているとわかると、子どもたちは声を静め、
じっと見入っていました。

城北保育園 5 歳



あっ! そうだ

“火をおこせそうな木”を見つけたことをきっかけに、いろいろな情
報を得ながら試行錯誤を重ねて火おこしに挑戦する日々。保育者から
火がおきたら何をしたいか聞かれて、

「ドラム缶風呂に入りたい」

「焼き芋食べたい」

「お茶碗焼きたい」など園で経験したことが次々出てきました。

そんな中…焚き火の煙と雲の違いを考えていた子どもたちは

「空を飛ばしたい!!」

和光保育園 5 歳



たくさん苗の中から自分の苗を選び、植える場所も考えて栽培を始
めたサツマイモ。大切に育ててきたので、自分のお芋への思いが言葉か
らあふれます。

「大きすぎて掘れないよ」

「手伝ってあげるよ」

「お芋の回りの土をそうっと掘ってね、折れないように…」

川奈幼稚園 5 歳



どうしたらいい!?

「やっぱり、もっと見え難い所じゃないとだめなんじゃない?」とカマ
キリの卵を、園庭のカラスから見えない枝に付けて守りたい子どもたち。

「葉っぱがいっぱいないとね」

「でも今は冬だから、空から見えちゃうね」と口々に言う。

「空から見てもわからないくらい葉っぱが茂っている木はあんまりない
ね」と悩んでいると…

「春になって葉っぱが出るまで、中でとっといたら?」

「ほんまや、ほんでカラスから見えないようになったら付けたらいいわ」
ということで、あわてて回収した卵は、保育室で春を待つことになりました。

瀬川保育園 5 歳



連日、いろいろな容器で氷作りをし、氷のでき方に不思議さや面白さを感じている子どもたち。「みんな凍った！すごく凍った！」と予想通りの氷ができたと思った日、温度計を見て、「今はマイナス5度だ」「マイナスってなに？」と話題になりました。そこで、保育者が「スキーウェアも手袋も着けずに外に出てみよう」と提案。「さぶい」「手が痛い」「顔が痛い」「カチンコチンの日だ！」「キンキンに寒い日だ」「マイナスってすごい寒いんだ」「マイナスだから凍ったの？」「鼻水も凍るぞ！」「自分たちも凍っちゃうよ」と言い、寒さを体験しました。

こひつじ幼稚園 5歳



予想以上に大きなタマネギができ、大きさ比べをすることになりました。大きい順に並べてみたり、重さで比べたり、根の長さや太さ、葉の長さを比べたり…。その中で匂いを比べて「大きいと匂いも違うかもね」「ひゃ～！大きい方はしみるよ！」「目が痛くなるね」

鹿児島幼稚園 5歳



そうか！やってみよう

静電気で“電気クラゲ”に挑戦するため、試行錯誤の日々。すると、「クラゲ」にも興味に移り、クラゲ作りを楽しむ姿も見られます。こうして、保育室に飾ったクラゲで遊んでいて…

「こうやってユラユラするの？」
 「そうそう、クラゲって骨ないんだよね」
 「だからフワフワなのかなあ」
 「なんかかわいいね」
 「でもしちゃんが、海でクラゲに刺されたんだって。腕が真っ赤に腫れてたよ」
 「え～、クラゲってかわいいだけじゃないんだね」



るんびに一保育園 5歳

4歳児がカブトムシを飼うことになりました。幼虫なので「知っているカブトムシ（成虫）とは違う…」という出会いでした。「糞でいっぱいになっているのはかわいそう」と気付いて世話をするようになり、毎日世話をしていると、次第に幼虫の様子や大きさなどの変化にも気付いて話題にするようになりました。

ある日、様子が変わってきた幼虫を見て「サナギ、ゴムみたいになるんだよ…」と言い、絵を描きました。



北陵幼稚園 4歳